



平成30年度
森林環境教育・木育活動事例集

三重県 



はじめに

三重県では、平成26年4月から「みえ森と緑の県民税」を導入し、「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めています。これまでも、三重の森林づくり基本計画に基づき、森林環境教育の機会の増大を図ってきたところですが、この税の大切な取組の一つとして、森林環境教育・木育の推進に取り組んでいるところです。

「みえ森と緑の県民税」の導入から5年目となり、制度を一部見直しました。平成31年度からは新たな制度として、森林環境教育・木育の推進にさらに注力して取り組んでいくこととします。

また、この税を活用して、平成28年4月から津市白山町の三重県林業研究所内に「みえ森づくりサポートセンター」を設置・運営しています。みえ森づくりサポートセンターでは、森林環境教育・木育活動のコーディネート、指導者の紹介、出前授業など、森林環境教育・木育に取り組んでいただける皆さまのお手伝いをいたします。

本書は、平成30年度に県内の学校などで実施された森林環境教育・木育の活動事例について、学校などから提供いただいた情報をもとに編集したものです。学校などでの今後の取組の際に、本書の事例を参考にいただければ幸いです。

この事例集に関するお問い合わせを含め、森林環境教育・木育全般のご相談については、「みえ森づくりサポートセンター」へご連絡ください。

最後に、本事例集の発行にあたり、活動事例をご提供いただきました皆さまに厚く御礼申し上げます。

平成31年3月 三重県農林水産部みどり共生推進課

「森林環境教育」とは

「森林内での様々な体験活動等を通じて、森林と人々の生活や環境との関係についての理解と関心を深める」
(平成29年度森林・林業白書)

「木育」とは

「子どもから大人までを対象に、木材や木製品とのふれあいを通じて木材への親しみや木の文化への理解を深めて、木材の良さや利用の意義を学んでもらうための教育活動」
(平成29年度森林・林業白書)

「森林環境教育・木育」の取り組み方の例

普段の授業や総合学習
遠足やキャンプ、宿泊体験
といった行事など

+

森林の持つ様々な
はたらきについての学習
森林資源(木材など)を
利用した体験活動など

=

森林環境教育
木育

目 次

1. ふるさとの森とともに
いなべ市立阿下喜^{あげき}小学校 5
2. 里山保全活動 ～四日市市少年自然の家にて～
四日市市立小学校 9校、中学校 4校 6
3. 年輪を調べてみよう！ ～樹木の年輪測定～
四日市市立常磐西小学校 7
4. 地域の森林について知る ～亀山の森林と林業～
亀山市立亀山西小学校 8
5. 木にさわってゲームを楽しもう！ ～クッブ体験～
亀山市立加太^{かぶと}小学校 9
6. 木の博物館プロジェクト《校庭編》～樹木調査と樹名板作り～
松阪市立宮前小学校 10
7. 小学生が創る宮川未来の森 ～林業体験～
大台町立三瀬谷小学校、宮川小学校 11
8. 木のあたたかみを感じよう ～カホン作り～
伊勢市立神社^{かみやしろ}小学校 12
9. 森林教室 ～シイタケ原木菌打ち体験～
大紀町立大紀小学校 13
10. 木の枝で作ってみよう！ ～キーホルダー作り～
南伊勢町立南勢小学校 14
11. 木と仲よくなろう！ ～木のコースター作り～
南伊勢町立南島東小学校、南島西小学校 15
12. シイタケ栽培を学ぼう
伊賀市立成和西小学校 16
13. 森あそびとテラリウム作り
上野児童福祉会 17

14. 里山体験学習	
名張市立桔梗が丘小学校	18
15. 学校林わくわくプロジェクト ～学校林を探検しよう～	
名張市立 ^{こもはら} 薦原小学校	19
16. 尾鷲ヒノキ間伐材を利用したマイ箸作り	
尾鷲市立 ^{やはま} 矢浜小学校	20
17. 森のはたらきを知ろう ～植樹体験学習より～	
紀北町立船津小学校	21
18. 森のはたらきを知ろう・県産材を使おう ～マイ箸作り体験～	
津市立南が丘中学校	22
19. 中学生林業体験 ～地域産業を学ぼう～	
津市立美杉中学校	23
20. ① 旧宮川村から地域を考える	
② 森林環境教育の教材作り ～自慢の森を見に行こう～	
三重中学校、三重高等学校	24
21. 竹林の整備と竹の活用 ～スタードーム作り～	
三重県立久居農林高等学校	25
22. 「林産物利用」での取組 2018 ～大台町の林産物の利用について～	
三重県立昴学園高等学校	26
23. 木組みジャングルジム「伊勢工高くむんだー」制作	
三重県立伊勢工業高等学校	27
24. 県産材に親しむことができる木育推進事業	
^{にしきお} 錦生保育所、 ^{おやど} 赤目保育所、 ^{こもはら} 桔梗南幼稚園、 ^{こもはら} 大屋戸保育所、 ^{こもはら} 薦原保育所、 ^{こもはら} 名張幼稚園	28
25. 木のおもちゃで遊んで・作って・学ぼう！	
ひまわり学童クラブ、長島中部学童保育所レインボー、放課後児童クラブレインボー駅前	29

01

ふるさとの森とともに

いなべ市立阿^あ下^げ喜^き小学校



5月 森の健康診断(学校林):100㎡あたりの木の本数、太さ、高さから、森の混み具合を判定します。木の高さを目測で計測しているところです。



11月 速水林業大田賀山林訪問:講師に森を案内していただき、お話を聞きました。ここでも、森の健康診断を行ったところ、健康な森でした。



間伐材の活用(5年) 台車作り:2年生の子たちが、猿の被害に遭わないように、野菜を作ったプランターを毎日出し入れしていました。大変そうだったので、プランターを運ぶための台車を作り、プレゼントしました。



間伐材の活用(6年) 棚作り:自分たちで設計し、みんなが使いやすい掃除道具入れと、教室の空きスペースに合った本棚づくりをおこないました。全校集会で披露目し、各学年で使ってもらっています。

ねらい

- ・阿下喜の森(人工林)の健康診断を通して、地域の森の現状を知り、地域の森に関心を持ち、森についての探究活動を行う
- ・間伐した木を使って、学校のみみんなのためになる物を製作する
- ・「ふるさとの森とともに」の取組で学んだことを学習発表会で全校児童や保護者・地域へ発信する

取組内容

<5年生の取組>

5月に学校林及び私有林で森の健康診断を実施。不健康な森と診断され、間伐が必要であることが分かり、間伐作業を実施しました。健康な森とは、どのような森かを知るため、11月に速水林業大田賀山林を訪問し、速水氏から森の様子や森づくりに対する思い、FSCの取組について学びました。その後、森のはたらきを中心に学びを深め、5月に間伐した木を使って、台車作りを行いました。1学期末の学習発表会で、1年間の活動と学んだことを保護者・地域の人々に発信しました。

<6年生の取組>

くでじゅう

昨年の学びを基に、間伐材で作成された組手什を使って、全学年分の棚作りを行い、全校集会で贈呈式を実施しました。

<成果>

森には、様々なはたらきがあり、私たちが生きていくために必要なものであることを理解しました。しかし、木材の利用が減ったことや林業に関わる人の減少や高齢化などの課題があり、健康な森を守っていくことの難しさを知りました。一方で、間伐材の活用など、自分たちができることをすることが、いなべの森を守ることにつながることを学ぶことができました。

内容	・森の健康診断 ・山林見学 ・台車・棚作り
時間	<5年生> 学校林森の健康診断 7 時間 森のはたらき探究活動 5 時間 速水林業大田賀山林見学 7 時間 台車作り 4 時間 学習発表会 10 時間 <6年生> 棚と掃除道具入れ製作 6 時間 全校集会での発表 1 時間 卒業記念植樹 2 時間
場所	学校林及び私有林(森の健康診断) 紀北町速水林業大田賀山林 (フィールドワーク、森の健康診断)
対象	5 年生 22人、6 年生 24人
講師	森の健康診断出前隊 山造り研究所 鬼頭志朗氏 紀北町速水林業 速水亨氏 いなべ自然楽校 出口省吾氏

【先生のコメント】 自分たちが間伐した木を使って、製作活動を行うことによって、身の回りにある色々な物を自分たちでも作れるということが実感出来ました。また、間伐材の活用方法に関心が高まりました。

02

里山保全活動 ～四日市市少年自然の家にて～

四日市市立海蔵小学校ほか 12 校



ねらい

- ・里山は人間が利用することで維持され、たくさんの生きものを育ててきたことを理解する
- ・ノコギリの使い方、伐採の仕方を学ぶ
- ・伐採作業を実施することで里山保全の大切さをより深く理解する

取組内容

はじめに子どもたちは講師から里山についての話を聞きました。里山とは何か、里山は人の生活の中でどのように利用されてきたか、昔と現在の生活の変化によって里山の環境がどのように変化してきたのかを学びました。そして、里山を守るためにはどのようにすればよいかを考えました。

次に里山に入って、講師の指導のもと、ノコギリの使い方、伐採の仕方を学び、常緑樹の伐採体験をしました。伐採した木は約30cmの長さに切りそろえ、自然の家の野外炊事で使用する薪にしました。

この活動を通して、子どもたちは里山保全の大切さについて、理解を深めることができました。

内 容	・里山のお話 ・伐採体験		
時 間	2 ～ 3 時間		
場 所	四日市市青少年自然の家		
対 象	海蔵小学校	5 年生	139 人
	高花平小学校	5 年生	46 人
	常磐小学校	5 年生	143 人
	神前小学校	5 年生	37 人
	大矢知興譲小学校	5 年生	136 人
	三重西小学校	5 年生	60 人
	八郷西小学校	5 年生	41 人
	内部東小学校	5 年生	94 人
	橋北小学校	5 年生	35 人
	橋北中学校	1 年生	34 人
	塩浜中学校	1 年生	24 人
	富田中学校	1 年生	124 人
	朝明中学校	1 年生	188 人
講 師	桐生定巳氏 四日市市少年自然の家 職員		

【先生のコメント】 職員のスライドを活用してのレクチャーと常緑樹の伐採体験を通して、里山の手入れの必要性を体験することができました。

里山保全活動は事前学習もしっかり行っていただいたので、生徒はよく理解して木を切って、薪をつくることができました。

03

年輪を調べてみよう！ ～樹木の年輪測定～

四日市市立常磐西小学校



ねらい

- ・木の年齢を調べることで、木の生長を実感する
- ・人間が利用するために育てている森、人工林について知る

取組内容

初めに、講師から森の話をお聞きしました。林野庁作成のアニメーション映像『木を使って森を生かそう』を視聴しながら、日本の森林の現状と木材を使うことの意義を学びました。

次に、クイズ形式で、年輪の出来るわけや木目について学び、亀の甲羅や魚の鱗など、木の他にも年輪がある生物がいることも知りました。

最後に班別になって年輪を観察しました。年輪を数えながら、大きな円盤で学校ができた時など過去の出来事との関係を講師から聞きました。

また、木の香りを体験したり、年輪を数えやすくするために皮をむいたり、スギとヒノキの葉の違いを見比べました。

5～6名の少人数班で、講師と児童の対話が十分にでき、落ち着いた雰囲気の中で学習を進めることができました。

内 容	・森のお話 ・樹木のお話とクイズ
時 間	3 時間 30 分(2限×2回)
場 所	視聴覚室
対 象	4 年生 136 人
講 師	森のせんせい： 認定NPO法人 森林の風
備 考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

【先生のコメント】 子どもたちはクイズに答えながら楽しく木の年輪や木目について学ぶことができました。また、太い木や細い木の年齢を数えたり木の匂いをかいだりして、1人ずつが木にふれて体験できたので、木々を身近かに感じ、さらに興味を持つことができました。

04

地域の森林について知る ～亀山の森林と林業～

亀山市立亀山西小学校



ねらい

- ・地域の森林の現状を知るとともに、森林の大切さと効用について学ぶ
- ・森林に関わる仕事内容や仕事にたずさわる人々の思いや願いを知る

取組内容

三重県四日市農林事務所職員が「亀山市の木」や森林率など、地元亀山市の森林・林業に関することや、元気な森林を育てるためには森林を整備していく必要があることなど、クイズ形式で説明をしました。児童たちは、自分で一生懸命考えながら答えていました。

鈴鹿森林組合職員が森林組合の役割や森林の持つ公益的機能について説明しました。亀山市の森林に関心を持ってもらうため、亀山市の木が「杉」であることを知ってもらった上で、スギ・ヒノキ・マツの葉の実物を見せ、子どもたちと共に確認しました。木の名前は知っていても初めて実物のスギ・ヒノキ・マツの葉を見る子もいました。

スギ・ヒノキは間伐が必要で、森林組合の仕事の中心となっていることや、普通にある空気や水と森林が密接に関係していることを学べました。

内容	・森のお話 ・職場見学
時間	1 時間
場所	亀山市林業総合センター
対象	3 年生 88 人
講師	森のせんせい: 鈴鹿森林組合 三重県四日市農林事務所 職員

【先生のコメント】 森林や森林を守る仕事の大切さに気がつくことができました。

クイズ形式で教えてもらったため、楽しんで森林の大切さを学ぶことができよかったですと思います。実のある社会見学をさせてもらい、児童たちはその後、新聞を書いたり、カルタを作ったりする活動に取り組み、さらに学びを深めることができました。

05

木にさわってゲームを楽しもう！ ～クップ体験～

亀山市立加太かぶと小学校



ねらい

- ・ 地域の木が加工され、身近なものに使われていることを知る
- ・ 木に触れて、匂いや色、重さを感じる
- ・ 木を使ったゲームで楽しく運動をする

取組内容

亀山市立加太小学校では、体育の時間に、スウェーデン生まれのニュースポーツ「クップ(kubb)」体験を行いました。

クップは、2021年に開催される「三重とこわか国体」のデモンストレーションスポーツとして採用されました。

はじめに講師から森や木についてお話がありました。

1～2年生の児童には、身の回りにある木を使ったものの問いかけがあり、ドアや廊下などの答えが返ってきました。

3～4年生には知っている木の名前を発表していただきました。

5～6年生にはスギとヒノキを使ってクップを制作してくれた木材加工工場のお話がありました。

クップ体験では、ルール説明と練習のあと、チームで対戦しました。

投げたキャストピンナが命中して、クップが倒れると歓声が上がって盛り上がり、熱戦が続きました。

校区内の老人会の方々も来られて、クップに挑戦していただきました。子どもたちと対戦できるように、腕を磨かれるそうです。

内容	・ 森のお話 ・ クップ体験
時間	2 時間 40 分(低学年、中学年、高学年毎に各45分間)
場所	運動場
対象	1年生 4 人、2年生 4 人、3年生 8 人 4年生 5 人、5年生 6 人、6年生 6 人 計 33 人
講師	三栄林産(株) 坂 成哉 氏 林野庁三重森林管理署 職員 三重県みどり共生推進課 職員

【先生のコメント】 子どもたちは、クップを初めて体験しましたが、すぐに歓声を上げて楽しんでいました。クップを通して、身近な木の特徴や木の大切さにふれることができました。昼休みには、さっそくクップで遊ぶ子どもたちの姿が見られました。

06

木の博物館プロジェクト 《校庭編》 ～樹木調査と樹名板作り～

松阪市立宮前小学校



ねらい

・校庭の木の観察、名前調べや木の名札作りを通して、身のまわりにある木と仲良くなろう！

取組内容

1日目は、森のせんせいあらかじめ選んでおいた40本の樹木を8班に分かれて、1人2本を担当して、大きさ、葉の形、幹の色、表面などを観察し、名前を調べました。

観察調査後、同定した理由を発表しながら、樹木名を確定するとともに、それぞれの樹木の特徴について学びました。

2日目は、樹名板に使用するスギ板の心材と辺材の違いなどの特徴について学びました。

各自、掛ける木の大きさに合わせたスギ板2枚を焼スギ加工し、樹名を記入しました。作成した樹名板を取り付けるまでには至りませんでした。後日、全学年で取り付けました。

この時に、今回学んだことを下級生に伝えることもプログラムの一つになっていました。

内容	・樹木観察 ・樹名板作り
時間	3 時間 10 分(2限×2日)
場所	校庭、体育館ピロティー
対象	5 年生 9 人 6 年生 11 人 計 20 人
講師	森のせんせい： 叶林業合名会社
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

【先生のコメント】 子どもたちは、改めて木には特徴があり、個性があることを知りました。地域の地場産業である林業に興味を持つことで、毎日見る山や林の景色が違って見えるようになってきているように感じます。この地域をより好きになり、誇りが持てるよう、これからも学び続けたいと思います。

07

小学生が創る宮川未来の森 ～林業体験～

大台町立三瀬谷小学校、宮川小学校



山の見学



搬出作業



間伐体験



木材市場見学

ねらい

- ・地域の産業である林業について理解を深め、健全な山作りや環境保全への意識を高める

取組内容

各校で年間4回にわたり身近な森林を活動場所に、大杉谷自然学校と宮川森林組合の指導の下で体験学習を実施し、大台町の産業の一つである林業を体系的に学びました。自然を資源として活用する視点、経験から得た技術、人と自然の関わりなど地域の方との交流を通して深い学びを得る機会になりました。

実際の林業体験では、経験豊富なプロの方に指導していただくことで、子どもたちは楽しい体験だけではなく、仕事の取り組み方や姿勢、思いを知ることができ、大変さや危険を感じながら体験し、達成感を味わうことが出来ました。また、木材市場見学では競りを見るだけではなく、買い手や市場関係者の方の話を直接聞き、林業から広がる様々な分野から社会へと視野を広げることが出来ました。

間伐を行い、木材にして売るという一連の体験は、「身近な環境が少し良くなり、木材は活用され、自分たちはお金を稼ぐことができる」ということを知る貴重な経験となりました。この経験は身近な森林に目を向け、新たな発想のきっかけとなり、自然豊かな大台町の良さを改めて感じるとともに、いつまでも大切に守り育てていこうとする心情を養う機会にもなりました。

【先生のコメント】 ノコギリで木を切り倒すなど、普段は経験できない作業に真剣に取り組んでいました。皮を剥いだ木のみずみずしさに触れた時には、木も生きているのだと感動していました。

身近なところで林業に携わり、思いを持って活動されている方々と出会い、見せていただく姿と直接伺ったお話（生き方や思い）は、子どもたちの胸に響くものがとても多かったと思います。

自然への興味関心が高まっただけでなく、その豊かな自然を守り育てていきたいという思いを持ち、学んだことを伝えて広げていこうとする行動力へとつながる活動であったと思います。

内容	・山の見学 ・間伐体験 ・搬出作業 ・市場見学
時間	1校あたり 山の見学 1時間 40分 間伐体験 1時間 40分 搬出作業 1時間 40分 市場見学 1時間 40分
場所	各学校周辺の山林及び丸天木材市場
対象	三瀬谷小学校 4年生 24人 宮川小学校 4年生 14人
講師	森のせんせい：NPO法人 大杉谷自然学校 森のせんせい：宮川森林組合 森下林業 丸天木材市場
備考	町教育委員会事業「小学生が創る宮川未来の森事業」

08

木のあたたかみを感じよう ～カホン作り～

伊勢市立^{かみやしろ}神社小学校



ねらい

- ・木の特性を知り、親しみ、木の良さを感じる
- ・カホン制作を通して、木のあたたかさや良さを感じる

取組内容

毎年秋に開催される神小祭に向けて、今年の5年生はカホンを制作して演奏することになりました。

県産材のスギ板を用い、児童たちは講師の説明をよく聞いて、几帳面に端々を合わせながら丁寧に制作しました。

カンナを使うのは皆初めてで、持ち方や削り方を教えてもらわないと使えませんでした。指導後は上手に使っていました。削り片を鰹節だと言ったり、匂いを確認したり、さわっていました。

制作をとおしてスギ材の特質や木の良さを体験することもできました。

完成後は演奏練習も皆熱心にし、カホンで3つの音が出せることやさまざまなリズムを作り出せることを学びながら、4曲を練習することが出来ました。

最後に、児童から森のせんせいにお礼のあいさつと感想を述べる時間があり、積極的に児童が手を挙げて、「教えてもらったので道具を上手に使うことができた。」「仕上げることが出来て良かった。」「神小祭までに練習して演奏できるようにする」などの感想が出ました。



内容	・木のお話 ・カホン作り
時間	3 時間 20 分
場所	体育館
対象	5 年生 49 人
講師	森のせんせい：高橋一浩氏
備考	みえ森づくりサポートセンターによる 森林環境教育・木育出前授業

【先生のコメント】「カホン」という児童にとっては、初めて見る楽器で、興味を持ち制作に取り組むことができました。自作の楽器を使用し、文化祭で演奏できたことがとても貴重な体験となりました。

09

森林教室 ～シイタケ原木菌打ち体験～

大紀町立大紀小学校



ホダ木の扱い



収穫体験



シイタケ発生作業



みんなで菌打ち

ねらい

- ・シイタケ栽培の方法を知る
- ・シイタケ栽培の苦勞を知る
- ・シイタケの菌打ち体験やシイタケの収穫を通して、大変さや喜びを知る

取組内容

はじめに原木シイタケ栽培に使うクヌギ林を見学し、森のせんせいからクヌギを育てる方法について説明をうけました。

次に原木の伏込み、発生作業や経営の方針や理念についての話を聞きました。

菌打ちのための原木への穴あけ作業を見学した後、駒菌を原木に一人一本ずつ打ち込みました。出来上がった原木は森のせんせいに預かってもらい、シイタケが発生する再来年の秋に学校に届けてもらえることになりました。

発生舎では収穫の体験をしましたが、目標の100グラムを収穫するのはなかなか難しいようでした。

質問の時間にはシイタケが出来るまでの時間や年間の生産量、今と昔との違いなどいろいろなものがありました。

内容	・シイタケのお話 ・シイタケの菌打ち体験
時間	2 時間
場所	キノコランド(大紀町)
対象	3 年生 11 人 4 年生 14 人 計 25 人
講師	森のせんせい: 藤原善一氏
備考	公益社団法人三重県緑化推進協会事業 「森林教室」

【先生のコメント】 子どもたちはとても楽しそうに体験し、シイタケ作りについて理解を深めることができました。また、シイタケ作りの楽しさや難しさを話していただいたことで、自分の「夢」について考えることができたようです。

10

木の枝で作ってみよう！ ～キーホルダー作り～

南伊勢町立南勢小学校



森林のはたらきのお話を聞きました



葉っぱの匂いを体験したり、年輪を数えました



木の円盤をサンドペーパーで磨いて、絵や文字をかきました

ねらい

- ・森林のはたらきや木の生長する仕組みを知る
- ・木に触れて、加工の容易さを知る
- ・自分で作る達成感を感じる

取組内容

南伊勢町立南勢小学校では、木の枝を活用したキーホルダー作りを実施しました。

はじめに講師から森のお話を聞いて、森林には色々な生きものが住んでいることや、木が二酸化炭素を吸収し、炭素をたくわえて生長すること、木で作られたものを使うことで炭素を固定し続けることなどを学び、森林のはたらきと木の生長の仕組みについて理解を深めました。

次に木の葉や幹の円盤、板を使って、木には匂いがあること、種類により色が違うこと、乾燥すると縮むことなどを学びました。

実習では、スギ、ヒノキ、サクラの枝を輪切りにした円盤を材料に、サンドペーパーで表面を磨き、絵や文字を描いて仕上げ、キーホルダーを作りました。

子どもたちは木の質感や香り、加工することの楽しさなどを体験しました。



かわいいキーホルダーができました

内 容	・森林や林業のお話 ・キーホルダー作り
時 間	1 時間 50 分(2~3限)
場 所	図工室
対 象	2 年生 30 人
講 師	森のせんせい: いせしま森林組合
備 考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した町事業「森林環境教育出前事業」

【先生のコメント】 実際に木の幹や葉、花に触れたり、匂いをかいだりすることで、森林がより身近になりました。今回の木育を通して、自然により親しみをもち、大切にしていこうと考えることができました。

11

木と仲よくなろう！ ～木のコースター作り～

南伊勢町立南島東小学校、南島西小学校



ねらい

- ・木を使ったコースターなどの作品を作ることにより、木や森についての関心を高める

取組内容

最初に講師から森林のはたらきと木の生長の仕組みを聞きました。
 森林は雨水をたくわえ、木の根によって土砂崩れを防いでいること、木の種類が多いことや色々な生き物が住んでいることを学びました。
 また、木は二酸化炭素を吸収し炭素を蓄えて生長するので、木でつくられたものを長く使い続けることで、炭素を固定し続けられること、木を切ったところに、若い木を植えることで、森林が二酸化炭素を吸収し続けることを学び、理解を深めました。
 次に、木や葉っぱに触りながら、クイズに答え、特徴などを学びました。
 年輪のお話を聞いて木の年齢のクイズをしたり、円盤（ヒノキ）と葉っぱ（スギ、ヒノキ、クス、クサギ）の匂いを体験して、葉っぱ当てクイズをしました。
 割れた円盤や反った板に触りながら、木は乾燥すると縮むこと、また木にはそれぞれの色があることを確認しました。
 子どもたちは、大きな円盤を物珍しげに触ったり、葉っぱを鼻にくっつけて、香りを体験していました。
 最後に、ヒノキの円盤に紙ヤスリをかけて表面を仕上げ、絵や文字をかいて、オリジナルのコースターを完成させました。
 子どもたちは、サンドペーパーでつるつるになるまで、時間を忘れて一生懸命磨きながら、木の質感や香り、加工することの楽しさなどを体験しました。

内容	・森林や林業のお話 ・木のコースター作り
時間	1 時間 20 分
場所	南島西小学校の図工室
対象	南島東小学校 1 年生 12 人 南島西小学校 1 年生 6 人 2 年生 12 人 計 30 人
講師	森のせんせい：いせしま森林組合
備考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した町事業「森林環境教育事業」

【先生のコメント】 一生懸命作ったコースターを、「宝物にしました。」と話す子や、「お家の人にプレゼントしたら、コーヒーを飲むときに使ってくれています。」と教えてくれる子など、「木のコースター作り」の授業を通して、木や森について学びました。すると、今までは何気なく見ていた校庭の木や、通学路にある木を観察し、「桜の木を見つけました。」や「これは何の木かなあ。」と興味・関心を持つことができるようになりました。

本校は、前は海、後ろは山に立地しています。魚のことには関心が高いのですが、木には触れることがありませんでした。今回、木の香りをかぎ、木に触れ、役目を知り、興味津々でした。そして作ったコースターを大切に持ち帰りました。

12

シイタケ栽培を学ぼう

伊賀市立成和西小学校



体育館で、講師から森林・林業についてのお話



講師からシイタケ栽培についてのお話



シイタケの種菌を打っています



学校林までホダ木を選びます



ホダ木を仮伏せしています



学校林で、講師から森林についてのお話

ねらい

- ・学校林を活かして、シイタケ栽培をすることで森林の恵みについて知る
- ・森林のはたらきや林業、樹木について知る

取組内容

はじめに、講師から林業や森林のはたらきについてお話を聞きました。その後、シイタケの栽培についてのお話を聞き、実際にシイタケの菌打ち体験を行いました。

子どもたちは楽しそうに種菌を打ち込んでいました。また、当日は自由参観日で、保護者の皆さんも多数参加され、児童と一緒に菌打ちをする姿がありました。

さらに、児童がホダ木を学校林に運び、ホダ木を組んで仮伏せまで行いました。学校林では、講師から森林の良い所についてお話を聞きました。

実際に菌を打ち、仮伏せまで行うことで、シイタケ栽培の苦労を知るとともに、自然環境や森林の大切さについて学ぶことができました。

内 容	・森林や林業のお話 ・シイタケのお話 ・シイタケの菌打ち
時 間	3 時間(総合的な学習の時間)
場 所	体育館、運動場、学校林
対 象	1～4年生 58人 (児童の保護者 約25人)
講 師	森のせんせい: 青木茂氏 森のせんせい: 伊賀森林組合
備 考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した市事業「伊賀の森っ子育て推進事業」

【先生のコメント】 児童はとても楽しそうに体験していました。林業や森林のはたらきについて少しではあるが理解を深めることができました。

13

森あそびとテラリウム作り

上野児童福祉会



ねらい

- ・ 森の遊びや創作活動などいろんな視点から自然を体験することを通して、自然の中で遊ぶ楽しさを感じる
- ・ 自然の多様性を感じる

取組内容

前半は「動」の活動として「ネイチャーゲーム」と「森あそび」を行いました。まずは約30分間、芝生のエリアでカモフラージュなどいくつかのゲームを体験し、五感を開く状態になってから森の中に移動しました。

森の中ではターザンロープにブランコ、つなわたり、ハンモックなどなど、子どもたちが森で気軽に遊べるフィールドを用意し、約1時間半、子どもたちは自分のお気に入りの遊びを楽しみました。プログラム中に小雨が降りましたが、どの子も時間が経つのも忘れて遊びに没頭している様子で、終始賑やかな森遊びとなりました。特に人気のあったターザンロープはみんな列を作って何度もチャレンジしていました。

後半は「静」の活動として「森のテラリウム作り」を行いました。約1時間、森あそびで養った自然感覚を活かして自然の素材を採取し、ビンの中に自分好みの小さな森を作りました。1時間は長いのではという心配がありましたが、意外にも時間ギリギリまで使って、集中して森づくりに取り組んでいました。最後にみんなの作品を見せ合いっこして終了。ビンの中に子どもたち思い思いの森が完成しました。

プログラム当日は雨が降ったり止んだりの悪条件でしたが、みんなそんなことをもろともせず、元気に楽しんでくれて大変盛り上がるプログラムとなりました。

内容	・ ネイチャーゲーム ・ 森あそび ・ 森のテラリウム作り
時間	3 時間 ネイチャーゲーム 30分 森あそび 1時間30分 森のテラリウム 1時間
場所	三重県上野森林公園
対象	小学 4 ～ 6 年生 15 人
講師	森のせんせい：三重県上野森林公園

【先生のコメント】 今回はなかなかできない体験をさせていただきました。ロープを使った遊びには子どもたちは夢中になり、シンプルな仕掛けでこんなに森の遊びが広がるのかと驚きました。テラリウムづくりも子どもたちは初めての体験で、おもしろかったようで真剣に取り組んでいる様子でした。終了後も子どもたちは「また森に遊びに行きたい」と言っており、本当にプログラムを楽しんでいたようです。全体として子どもたちが自然に興味の湧くことのできるような、満足できるプログラムだったと思います。

14

里山体験学習

名張市立桔梗が丘小学校



事前学習として、教室にて、「里山について」のパワーポイントを見ながら、3名の講師の方々より説明を受けました。これにより里山に対する関心度はぐんと上がりました。



クイズ⑩「アサギマダラが、名張から一番遠くに飛んだところはどこでしょう。」「台湾?」「サハリン?」「香港?」「アメリカ?」
※ みんなの胸には、アサギマダラ〔蝶〕のバッジがついています。



子どもたちは、地図を見て相談しながら、急な坂道も進んでいきました。ボランティアの方たちは、子どもたちの活動を見守りました。



木を切る体験もさせていただきました。ほとんどの子が初めての体験でした。作ったコースターを大事に持って帰りました。

ねらい

- ・ウォークラリー（ネイチャーウォーク・クイズラリー）をしながら、里山の大切さを知る
- ・森林環境や自然の昆虫や植物に目を留め、自然環境に関心を持つ
- ・仲間と里山の中で、自然にふれながらふるさとの良さを知る

取組内容

学校教育の一環として位置づけ、総合学習の時間に行いました。
事前学習として、講師に教室に来ていただき、里山について話を聞くことで、里山体験への関心を持つことができました。
里山でのウォークラリーの時、ポイントごとに森林環境を題材にしたクイズを解いていくことで、里山の大切さを知り、里山を守ろうとする意識を持つことができました。「大人になったらカメラを持ってここに来たい。」と書いた子もいました。
PTAの本部役員さんやたくさんの地域のボランティアの方々に見守られ、自然の中で活動することで、感謝の気持ちを持ってました。

内容	・里山のお話 ・自然観察 ・ウォークラリーと森のクイズ
時間	4 時間 30 分(総合学習の時間 2日間)
場所	名張市東山ふれあいの森
対象	4 年生 94 人
講師	桔梗が丘自治連合協議会 加納康嗣氏(快適環境部会 部長) 上田博氏(子どもたちと地域の絆づくり事業 会長) 河合進氏(桔小絆キッズ 会長)
備考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した市事業「森林環境教育推進事業」

【先生のコメント】 どの子どもたちも満面の笑顔で里山での活動を行うことができました。ふるさとの原体験として、子どもたちの心に残り、将来的にも里山に関心を持ってほしいと思います。遠足でも利用していきたいです。時間をかけて里山を整備してくださった地域の方々に感謝しています。

学校林わくわくプロジェクト ～学校林を探険しよう～

こもはら
名張市立薦原小学校



講師に、学校林の健康状態や森で生きている生きものについての話を聞きました。



実際に葉や実を手にとって、木の種類を見分けることを教えていただきました。



地域の方々による間伐の見学で、木が倒れる迫りに圧倒されました。



切り倒された木を学校林から搬出し、薄く切ってもらった木片を大事に持って帰りました。

ねらい

- ・学校林での体験的な活動により、森林に対する理解を深める
- ・森林の良さを体感するとともに、製材所の見学を通して木材を活かした生活について考える

取組内容

5年生の社会科の産業学習で林業を学習しています。この学習では、実際に学校林に入り、体験的な学習によって森林の良さや林業体験をすることによって森林についての理解を深めていきました。

学校林だけの活動だけに限らず、9月の宿泊体験活動では、宿泊施設周辺の森に入り、森の健康観察や木の種類について学習し、間伐材で丸太切り体験を行いました。

1月の学校林での活動は、講師から学校林の健康状態や森林の役割、森で生活する生きもの話、そして人の手によって行う間伐の大切さを教えていただきました。その後、地域の方々（薦原市民センター）の間伐を見学し、切り倒された丸太を山から搬出しました。

この活動により子どもたちは、次の学習成果が得られたと思われます。

- ・学校林での体験活動や見学を通して、日本の林業についての理解を深め、木材を活かす生活について考え合うことができました。
- ・子どもたちは初めて入る学校林に興味を持ち、協力しながら意欲的に学習に取り組んでいました。また、森林の環境を体感すると共に、木材の利用についても考えながら学習を進めることができました。

内容	・森のお話 ・間伐の見学と丸太搬出
時間	2時間 (総合的な学習の時間及び社会科)
場所	学校林、教室
対象	5年生 16人
講師	みえ森づくりサポートセンター
備考	「みえ森と緑の県民税」市町交付金を活用した市事業「学校林整備事業」

【先生のコメント】 学校林が整備されて3年目になり、学校林を使った森林環境学習を計画的に実施できました。初年度は、6年生の活動でしたが、昨年度は、5年生の社会科の単元と関連づけて実施しました。秋も深まり色づき始めた広葉樹と針葉樹の対比ができる頃ということで、10月末の実施でしたが、スズメバチが活動中でしたので、今年度は1月の実施となりました。子どもたちは、少しずつ整備されている学校林で、五感を働かせて楽しく学ぶ体験ができたと思われれます。

16

尾鷲ヒノキ間伐材を利用したマイ箸作り

尾鷲市立やはま矢浜小学校



ねらい

- ・森林のはたらきや間伐作業の必要性について学ぶ
- ・地元の特産品である「尾鷲ヒノキ」の手触りや香りに親しむ

取組内容

尾鷲市内の小学校、中学校、高等学校では、毎年特定の学年を中心に、尾鷲ヒノキの間伐材を利用した「マイ箸作り」に取り組んでいます。出来上がった作品は、1月の「尾鷲ヒノキマイはしコンテスト」に出品されます。

矢浜小学校では、毎年5年生を対象に、講師の方を招いて体験授業を行っています。はじめに、森林のはたらきや間伐作業の必要性を学びました。森林とわたしたちの生活との関わりや間伐作業など、子どもたちにとって初めて知る内容も多く、実りある学習になりました。3学期の社会科で扱う林業の学習でも、このときに学んだことが活かされていました。

その後、尾鷲ヒノキの間伐材を利用した角材を2種類のサンドペーパーでこすり、箸の形を整えました。そして、あらかじめ描いておいたデザインを見ながら箸に鉛筆で下書きし、電熱ペンでなぞって模様をつけ、最後に油性ペンで着色しました。どの子も集中して作業し、こだわりを持って取り組んでいました。また、「すべすべや」「いいにおい」「柿渋ってなんかいいね」と、木や塗料のよさを感じているようでした。

できあがったマイ箸を見てみると、ブリや椿など尾鷲をモチーフにした箸、ネコや野球など自分の好きなものをモチーフにした箸など、個性的で色彩豊かな作品が並びました。折り紙で箸置きを作って校内に飾りに行くときの、大切そうに箸を持つ子どもたちの姿が素敵でした。

内容	・森林や林業のお話 ・マイ箸作り
時間	2 時間 20 分
場所	教室
対象	5 年生 17 人
講師	森のせんせい：NPO法人 海虹路代表 池田比早子氏
備考	市事業 「尾鷲ヒノキマイはし コンテスト事業」

【先生のコメント】 今回はじめて子どもたちと一緒にマイ箸作りを体験しました。木の大切さについてお話ししてもらっただけでなく、その木を使って楽しく活動することによって、子どもたちの心に残るのだと実感しました。予定していたよりも時間はかかってしまいましたが、こだわりを持って最後まで取り組むことで、木やマイ箸に親しみや愛着を持つことができたと思います。コンテストの授賞式では、中学生や高校生の作品を見てその出来栄に驚いたり、木の香りがするスプレアの香りに笑顔になったりしました。よい思い出になりました。



葉からヒノキとスギのちがいを知る



ねらい

- ・ 植樹体験をとおして地域の林業や森林などについて学ぶ
- ・ 森林のはたらきを知り、自然環境を大切にすることを育成する

取組内容

はじめに地元の尾鷲ヒノキについて、森林のはたらきや林業の仕事(緑の循環)について学びました。

その後、植樹場所に移動し、ヒノキの苗木約100本を植樹しました。指導者の方に植え方を教えてもらった後、山の斜面に植樹していきました。

子どもたちは、石があったり、木の根があったりして穴を掘るのに苦労しましたが、徐々に慣れてきて、土をかぶせた後、周りを踏み固めて一生懸命植えることができました。

植樹体験や丸太をノコギリで切る体験をとおして地域の林業を身近に感じ取ることができたと思います。

内容	・ 森林や林業のお話 ・ 植樹活動
時間	2 時間 30 分
場所	教室 紀北町船津字赤羽谷地内の町有林
対象	5 年生 4 人 6 年生 2 人 計 6 人
講師	森林組合おわせ 紀北町農林水産課 職員
備考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した町事業「森林環境教育事業」

【先生のコメント】 子どもたちが植えた苗木は小さいですが、5年後10年後にどう育っているか楽しみです。植樹体験をとおして自然を大切にしようとする心が育ってほしいと思いました。

18

森林のはたらきを知ろう・県産材を使おう ～マイ箸作り体験～

津市立南が丘中学校



ねらい

- ・ 県内の森林や林業の現状や森林のはたらき、大切さを知る
- ・ 県産材を使ってマイ箸作りを行い、木の良さを感じ、木に親しむ

取組内容

津市内の中学校の技術科では、安全・安心な生活という視点を取り入れた授業を行っています。

例えば、生産者としての社会的責任(CSR)や製作材料に地元の木材を利用することが、地域活性化や森林の再生につながることを学んだ上で、制作を行っています。

はじめに、森林の有する地球温暖化防止や土砂崩壊防止などの公益的機能についてのお話を聞き、林業についての紹介や、特に人工林では間伐の必要性と県産材を使うことが森を元気にすることを学びました。

その後、スギの間伐材を利用した角材を小刀で削り出し、箸作りを行いました。

初めて小刀を扱う生徒が多かったですが、小刀の扱い方を丁寧に教わり、皆真剣に取り組んでいました。

小刀で削ったり、サンドペーパーで磨きながら、森林を想像し木に親しまれました。

内容	・ 森林や林業のお話 ・ マイ箸作り
時間	2 時間 50 分 (1クラス当たり50分×3クラスで実施)
場所	木工室
対象	1 年生 87 人
講師	森のせんせい: 中勢森林組合
備考	みえ森づくりサポートセンターによる 森林環境教育・木育出前授業

【先生のコメント】 できた箸を、周りの方々にほめられて喜んで持ち帰りました。今は、県産材を使った物作りとして、小さい子どもが使うミニ机をプロシューマ(生産者と消費者の両方)の視点で設計・製作をしています。

津市立美杉中学校



ハシゴ登り体験



伐倒体験



火おこし体験



ロープ上げ体験



チェーンソー体験

ねらい

- ・美杉地域の産業の1つである林業の体験を通じて、美杉地域の林業の現状、林業の魅力や可能性について学ぶ
- ・子どもたちの地域に対する理解を深め、地域への愛着心を育むことにより、将来の地元への定着や地域の未来を担う人材育成を図る

取組内容

講師が管理をしている山林に入り、現地で林業の現状や作業するための諸注意を聞きました。

体験では、林業で行う「ハシゴ登り」、「ロープ上げ」、「チェーンソーによる丸太切り」、「火おこし」、「伐倒」を体験しました。ハシゴ登りは高い木の枝を払うために必要なもので、木に垂直に掛けた専用のハシゴを安全ロープ1本で登っていきます。想像以上の高さに足がすくむ生徒もいましたが、無事ハシゴのてっぺんまで登ることができました。

ロープ上げは立木を引き倒したりするときに必要で、木にかけたロープを山側から勢いよくしならせながら上へ上へと上げていきます。コツが必要で難しかったですが皆一生懸命ロープを振っていました。

チェーンソーは林業では最もよく使用する機材です。仕組みから扱い方まで指導員から丁寧に説明を受けました。防具に身を包んだ生徒は皆上手に丸太を薄く切ることができました。

火おこしは木の摩擦熱を利用した着火で、煙が出るまで時間がかかりましたが火種から煙が勢いよく出ると歓声が上がりました。

伐倒では実際に木を1本倒します。講師が倒す木を選定し、倒す方向を決めてくさびを打ち込みます。そのくさびを生徒たちが交互に木づちで打ち込んでいきました。すると木が徐々に傾いていきメキメキメキと大きな音を立てて倒れていきました。本番同様に木を倒す迫力に生徒たちは圧倒されるとともに感動していました。

美杉地域の林業で行われていることを実際の現場で体験することで、林業の魅力を肌で感じることができ地元産業のことを学ぶことができました。

内容	・林業のお話 ・林業作業体験
時間	2 時間 30 分
場所	津市美杉町丹生俣山林
対象	1 年生 8 人
講師	三浦林商 三浦妃己郎氏
備考	市(美杉総合支所)事業 「地域コミュニティ形成事業」

【先生のコメント】 生徒は各体験に真剣に、かつ楽しんで取り組むことができました。講師から、林業が将来なくてはならないものになっていくという話もしていただき、生徒自らが進路について考える良い機会になったのではないかと思います。

①旧宮川村から地域を考える

②森林環境教育の教材づくり ～ 自慢の森を見に行こう～

20

三重中学校・三重高等学校



林産物の話（香料）、木のすみわけについて、森林組合の岡本宏之氏から解説してもらいました。



細洲芳弘氏の森づくりの説明を受けているところ（吉野林業の流れを汲む密植、節無し材を育てる枝打ち法、下草・灌木が多く育つ森づくりのお話など）



木に親しむ！木育プログラムでクップを実施。



みやがわ森選組の方々から、薪づくりや薪の燃やし方を教わりました。



自分たちの作ったプログラムを日本環境教育学会で発表。

ねらい

- ① ・森林で有名な、自分たちの地元である旧宮川地域をいろいろな人と関わりながら、生徒自身が自ら学ぶ
- ② ・人工林の荒廃に対して主体的に取り組む生徒をつくる
 - ・林業家の方々が丹精込めて創っている人工林の素晴らしさを知り、人工林についての興味・関心をもつ

取組内容

- ① 10月30日の遠足に向けて、地元メンバー・科学技術部メンバー・一般メンバーを合わせた28名の実行委員会を結成し、旧宮川村の見どころを各班で話し合い、地元の方々と相談しながら見学場所を選定しました。その後、事前学習として大台町役場の方々・宮川森林組合・中日新聞・本校の関教諭（移住者）の協力のもと講演会を実施しました。
当日は、主として大杉谷自然学校で環境学習の仕方を学んだ1号車、ふるさと案内人・宮川上流鮎種苗センター・報徳診療所・宮川歯科診療所を訪れた2号車、林業家の細洲氏と森の健康診断出前隊と調査を行った3号車に分かれ、宮川森林組合とみやがわ森選組の内容については全号車体験学習を行いました。今後継続して地域研究を行っていきます。
- ② 本校の高校1年生の森林に関するアンケートを実施したところ、荒廃している人工林に対して自分から主体的に行動をとりたいと考える生徒が少なかったため、科学技術部は、主体的な生徒を増やすべく、既存の森林環境教育を受けたり、三重県のデータを集めたりしました。その中で、森林を調査するプログラムを自分たちで作ったり、木育のプログラムを模索したり、細洲氏の自慢の森の調査をさせてもらったりしています。
それらの成果を日本森林学会、日本環境教育学会をはじめとしているいろいろな場で発表しました。

内容	<ul style="list-style-type: none"> ・森林や林業のお話と見学 ・森の健康診断 ・森林環境教育プログラム作り ・クップ体験
時間	<ul style="list-style-type: none"> ① 20 時間（総合的な学習の時間、生物基礎の時間など） ② 10 日間ほど
場所	<ul style="list-style-type: none"> ① 大台町旧宮川村地区、教室 ② 大台町旧宮川村地区、屋外
対象	<ul style="list-style-type: none"> ① 高校 1 年生（六年制高等部 4 年） 143 人 ② 三重中学校・三重高等学校 科学技術部 部員 43 人
講師	<ul style="list-style-type: none"> ① 森のせんせい：宮川森林組合 森のせんせい：みやがわ森選組 森のせんせい：大杉谷自然学校 細洲芳弘氏 ふるさと案内人 筒井敏氏 大台町役場 報徳診療所および宮川歯科診療所 宮川上流鮎種苗センター 川端清之氏 森の健康診断出前隊 ② 細洲芳弘氏 三重県みどり共生推進課 職員

【先生のコメント】 ①地域を大切に考えている、想いを持った方々に出会い、地域に関して真っ向から考える機会となっています。

②森林に親しむ生徒が増えてきており、クラブ活動では、先輩が後輩を教えるシステムが出来上がり、継続して取り組んで行けそうです。細洲さんの想いのこもったお話をお聞きし、林業の現状に関して考え・行動に出る生徒が多く出てきて欲しいところです。

21

竹林の整備と竹の活用 ～スタードーム作り～

三重県立久居農林高等学校



ねらい

- ・ 里山における竹林の現状や、竹材を利用する効果を知る
- ・ スタードームの制作を通じて、竹の特徴を知り、物作りのおもしろさを体感する

取組内容

まず、講師から竹林整備の意義、竹材利用、利用竹の見分け方等の講話、スタードーム作成手順の説明を聞きました。

その後、農園で急斜面の竹林から竹を搬出する作業を行いました。密集した立竹の隙間をぬって切った竹を急斜面の上に引き上げる作業は、思いのほか手間がかかりました。枯れ竹や、折れた竹の整理も行いました。

搬出した竹で大きなスタードームを作りました。作業は、生徒たちにとっては初体験です。講師から指導を受けながらも、なかなか苦戦しながら竹を組んでいき、ドームの形に立ち上がりました。最後にテントを上からかぶせて完成しました。生徒たちも中に入って、その大きさに感動しました。

生徒たちは竹林を整備しながら、整備で出た竹を有効活用できることを体験しながら実感することができました。講師からはさらに、もしも大災害が発生した場合には、避難所としても使える大きさであること、サバイバルの知恵として使えることも学びました。

文化祭にもこのドームは展示をすることにしました。

内容	・ 竹林整備 ・ スタードーム作り
時間	3 時間 50 分
場所	実習棟教室、農園
対象	環境保全コース 3 年生 24 人
講師	森のせんせい：秘密基地研究会
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林環境教育・木育出前授業

【先生のコメント】 学校に竹林があるものの、竹を扱うのは初めての生徒がほとんどでした。竹を切ったり、割ったり、これまで経験のない作業を楽しみながら行っていたのが印象的でした。想像していた以上に立派なドームができ上がり、完成したときの達成感はとても大きかったようです。文化祭には、スタードームを1つのイベントブースとして、自分たちが制作した木工作品を展示販売しました。きれいな星形のドームは、来場していただいた方々に大変ご好評をいただきました。

22

「林産物利用」での取組 2018 ～大台町の林産物の利用について～

三重県立昴学園高等学校



バターナイフ（加工前）



バターナイフ（完成）



各自のバターナイフを持って



ソープディッシュ

ねらい

- ・大台町の林産物の有効利用について考える
- ・木材加工の方法を習得し、ものづくりのおもしろさを知る

取組内容

昴学園高等学校の位置する大台町は、宮川の流域にあり、自然が豊かな地域です。

本校は県立学校で、5つの系列があり総合学科・全寮制です。2年生から各系列に分かれ、普通教科に加えて各系列の専門的な内容を学習します。環境技術系列では、農業に関する科目を学習します。

今年度、環境技術系列(2年生)の科目の一つ「林産物利用」では、木材の加工と活用についての学習を行いました。木工作家の講師には、バターナイフ(10月22日)とソープディッシュ(11月26日)の製作を指導していただきました。講師は、大台町にある「トヨタの森」の活用にとりくむ「フォレストチャレンジャー」として活躍されています。バターナイフは、大台町(トヨタの森)の材を用いて行いました。材が固くて加工は大変でしたが、講師のわかりやすい指導のおかげで美しく仕上がりました。ソープディッシュは滑らかな曲線を出すのが難しく、納得のいくまで何度もサンドペーパーをかけて仕上げました。

製作したバターナイフとソープディッシュは、美しい仕上がりでした。この製作を通じて、生徒たちは木材加工について多くの気づきを得ることができました。

内 容	・木のお話 ・木のバターナイフ作り
時 間	180分(バターナイフ) 90分(ソープディッシュ)
場 所	林業実習室
対 象	環境技術系列 2年生 16人
講 師	吉川和人氏

【先生のコメント】 授業を重ねるたびに生徒の技術が向上し、積極的な生徒が増えていくのでうれしい限りです。90分間(本校の1時限は90分)連続の作業でも生徒は真剣に取り組んでいて、あらためて木工のもつ魅力に“私自身”が驚かされました。

23

木組みジャングルジム「伊勢工高くむんだー」制作

三重県立伊勢工業高等学校



ねらい

- ・木組みジャングルジムの制作を通して、木材の特性を知り伝統的な木造の仕組みを学び、その技術を習得する
- ・地域の子どもたちに、木組みジャングルジムの組み立て遊戯を指導する活動を通じて、建築の醍醐味やその魅力を体感してもらおうとともに、保護者にも日本の伝統的な木構造の温かみや頑丈さを伝えていく

取組内容

県立伊勢工業高校建築科では、一年生で三重の木を素材に木造軸組みの加工制作（技能検定課題）に取り組み、木造建築の基本構造を学び、三年生では日本の伝統木造の工法を用いた「よろい囲いの展示台」や「木組みジャングルジム」を企画制作し、東海総体の案内ブースや伊勢工業高校発表会などで地域に公開してきました。

今回は三重県で行う木育イベント用の木製遊具として「伊勢工高くむんだー」を制作しました。

手作りジャングルジムの組み立てや解体をとおして、子どもたちに建築のおもしろさや木組みの力強さ、木の温かみなどを感じてもらえたらと思います。

内容	・木組みジャングルジムの制作 ・遊戯指導活動
場所	教室
対象	建築科生徒 10人
講師	東原建築工房 東原達也氏(制作指導)

【先生のコメント】 建築科の生徒は、実習や放課後の活動で木材加工に係わる人が多いです。特に、社会との連携によるものづくり教育の活動は生徒にとって大きな力になっています。木材加工におけるものづくりのおもしろさと大切さを日々味わっています。

県産材に親しむことができる木育推進事業

にしきお 錦生保育所、赤目保育所、桔梗南幼稚園、おやど 大屋戸保育所、こもはら 薦原保育所、名張幼稚園



木や森のお話を聞く

ヒノキの円盤や実や種にふれている様子



木の机や椅子を活用しているところ



ヒノキの年輪を数える園児たち

ねらい

- ・木や森についてそのはたらきを知る
- ・木にふれて親しみ、その良さや匂い、あたたかさなどを五感で感じる

取組内容

名張市では、一昨年度より公立の保育所・幼稚園に木製品の机や椅子、本棚、キッチンセットなどを導入してきました。

今年度は、木製品を導入するだけでなく、子どもたちにもっと木を知ってもらおうと木育を行いました。

講師より、木は森から来ていること、森はどんなところで、木や森はどんなはたらきをしているか、机や椅子になっているヒノキは人の手で育てられていることなどのお話をいただきました。

そして、お話の中で本物のヒノキの円盤と実と種にふれたり、匂いを確かめたりしました。

話を聞いているときも子どもたちはとても熱心に木や森や森の生きもののことを考えて発言し、根のはたらきについて知っていたり、葉のはたらきについても理解しようと一生懸命聞いていました。

ヒノキの円盤は「重い!」「いい匂い!」「(表面が)つるつると(裏面の磨いてないほうは)ザラザラだ!」「つるつるのほうが冷たくて、ザラザラのほうがあったかい!」と次々にさまざまな感想が出てきました。年輪を自主的に数える子たちもいてとても驚きました。実や種にも興味津々で種をまきたいという子も出てきました。

机や椅子の使い心地は「気持ち良い」とみんな笑顔で答えてくれて、子どもたちには好評のようでした。

名張市ではこれからも子どもたちが木や森に親しむことができる事業を実施していく予定です。

内 容	・森と木のお話 ・木とのふれあい
時 間	各園 30 分
場 所	保育所や保育園、幼稚園の室内
対 象	錦生保育所 23 人 赤目保育所 25 人 桔梗南幼稚園 68 人 大屋戸保育所 36 人 薦原保育所 25 人 名張幼稚園 51 人
講 師	みえ森づくりサポートセンター
備 考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した市事業「県産材に親しむことができる保育所の環境整備事業」

【先生のコメント】 木育とは、子どもたちにとって、むずかしい話なのではないかと思っていましたが、実際にお話を聞いたり、木、種等に触らせてもらったりすることで、子どもたちは大変興味深く真剣に見入り、とても心に残る体験となりました。特に木の手触りや匂い、模様（年輪）に関心を持ったようでした。子どもたちからは「机や、椅子を大切に使う」という声も出ていました。机や椅子になる工程のお話を聞くことが出来てよかったです。五感を通してはたらきかける事の大切さを保育者として再確認できました。

椅子や机は子どもたちに一番近い保育用品です。そこに県内の木が使われ、ぬくもりや優しさが実感として伝わっていくことは時間が経っても確かなものだと思います。私たち人間も環境の一部です。長い年月をかけて育てられてきた木の恩恵を受け、自然と共に生きることを次世代の子どもたちにしっかりと手渡していきたいと思いました。

木のおもちゃで遊んで・作って・学ぼう！

ひまわり学童クラブ、長島中部学童保育所レインボー、放課後児童クラブレインボー駅前



ねらい

- ・森や木、林業について学び、理解を深める
- ・木にふれることにより木の良さを体感し、木に親しむ

取組内容

桑名市内の3つの学童保育所などでは、会場内に3つのテーマで体験コーナーを設け、体験を通じて学習することにより、木の温もりを肌で感じ、木とふれあうことの楽しさを感じるとともに、森林を守ることの大切さについて学習しました。

「学ぼう」では、紙芝居形式で森のクイズをしました。木の種類や山の手入れ、測量に使う道具の名前など、森林や林業と木のことを学びました。

「遊ぼう」では、木製ボールプール「もりぼーる」や、木のおもちゃに触れて、木の感触を楽しみました。

「作ろう」の丸太切り体験では、のこぎりを使うのが初めての子もいて、「手が疲れた。」「もうできない。」と言いながらも丸太を切り落とし、切り取った円盤をサンドペーパーで磨き、イラストなどを描いてコースターを作りました。

内容	・森と木のクイズ ・木のおもちゃ遊び ・丸太切りとコースタ作り
時間	2 時間(各施設当たり)
場所	桑名市立日進小学校の体育館 長島中部学童保育所レインボー 放課後児童クラブレインボー駅前
対象	ひまわり学童クラブ 児童 16 人 長島中部学童保育所レインボー 児童 35 人 放課後児童クラブレインボー駅前 児童 20 人
講師	森のせんせい：金津順一氏 森のせんせい：館俊樹氏 森のせんせい：向田恵子氏 三重県四日市農林事務所 職員
備考	みえ森づくりサポートセンターによる 森林環境教育・木育の出前授業

【先生のコメント】 木のぬくもりを感じることができ、良かったです。ボールプールで寝転び、木の感触を十分に楽しんだようです。ボールプールが楽しかったー！！と喜んでいました。

台風が来ても中止にしないで、行っていただけで感謝しています。

普段なかなかふれることのできない自然に直接ふれることができ、貴重な体験をさせて頂きました。ヒノキの香りもよく、ノコギリを使うことも経験でき大変有意義な時間をすごせました。

森林環境教育・木育のサポート



学校や保育園・幼稚園、学童保育などで取り組まれる森林環境教育や木育の活動にかかるサポートを行います。

●主なサポート内容

- ・「出前授業」の実施
- ・指導者「森のせんせい」の紹介
- ・授業を行うにあたっての相談対応
- ・授業の組立やプログラム作成のお手伝い

「出前授業」

これから森林環境教育や木育を始めたいという方を対象に出前授業を実施しています。はじめの一歩にご活用ください。



森づくりのつながり

「森のせんせい」のネットワーク構築や、座談会の開催、森林環境教育や木育、森づくり活動を行う団体との連携を行います。

物品や資機材の貸出

●貸出物品の一例

- ・ボールプール「もりぼーる」をはじめとする木製遊具
- ・ヘルメット、チャップスなどの安全装備
- ・ハンディGPSなど測量用具各種



「ミエトイ・キャラバン」

木育を多くの方に体験していただくために、三重の木を使った木製遊具などを出展する

「ミエトイ・キャラバン」を行っています。

指導者の育成

各種講座を通じて、森林環境教育や木育の指導者の養成や、「森のせんせい」登録者のスキルアップを図ります。



●講座の内容

- ・「森林環境教育指導者養成講座」の開催
- ・「森のせんせいスキルアップ講座」の開催
- ・「学校教職員森林環境教育指導者養成講座」の開催
- ・「木育指導者養成講座」の開催

イベントの開催



広く森林環境教育や木育の取組を伝えるための「場」として、また指導者の実践の場として、各種イベントを開催します。

●イベントの一例

- ・木の遊具やおもちゃで遊べる「ミエトイ・キャラバン」の開催
- ・自然観察や木工体験など「森の学校」の開催
- ・「子ども森の写真教室」の開催
- ・「みえの森フォトコンテスト」の開催



表紙の写真「みよへん」第5回みよへの森フォトコンテスト小学生以下の部 入賞作品

【発行】 三重県農林水産部 みどり共生推進課

【編集・お問い合わせ】

みよへの森づくりサポートセンター

三重県津市白山町二本木 3769-1 三重県林業研究所 交流館内

TEL:059-261-1223 FAX:059-261-4153 mail:miemori@zc.ztv.ne.jp

web <http://www.zc.ztv.ne.jp/miemori/> facebook <https://www.facebook.com/miemoridukuri/>

この事例集は、「みよへの森と緑の県民税」を活用して作成しました。